

山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり

里楽:広報企画 ○中森 晃一
里楽:メンバー 中間 良一
里楽:メンバー 藤田 和子

1.活動方針・目的

奈良県山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。その実現のため荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用法を模索する。
農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め会員とし、耕作放棄地再生の過程やその結果を共有し、それから生まれる農産品やサービスを会員に提供すること。

2.活動内容

里楽(里山再生プロジェクト農倶樂部の略称)は、平成22年結成された。山添村で増え続ける耕作放棄地を再生すること、またこうした活動を都市と農村の交流、村や里山の活性化につなげていくことを目指します。

最初に取り組んだのは、長年放置されてジャングルのようになった茶畠の伐採、切り開いた圃場内にドラム缶の炭焼き窯を設置し、茶の木を材料に木炭を作る。

整備した圃場には都市住民も参加し、ジャガイモ・玉葱・さつま芋などを植え、収穫の際は取れたての野菜を使いバーベキュー(使用した炭は茶の木を木炭にしたもの)、など共に取り組んだ。

草刈り作業軽減のため、山添村にある観光施設「めえめえ牧場」の協力を得て、羊3頭を借り受け、春～秋の圃場に放牧しその除草効果を実証した。

また、耕作放棄の茶園に無数に落ちる茶の実に注目、茶の実から搾油する取り組みを始めた。

3.他の活動団体の参考となる事例

耕作放棄地の伐採作業などは重労働を伴うため、重機等の利用が欠かせない。そのために村内の大规模な農業担い手との協力関係を築いた。

山添村観光ボランティアの会の協力を得て、山菜狩りツアー＆バーベキューなどを企画し、組み合わせて、都市住民との連携を図ってきた。

めえめえ牧場の羊を利用した除草は里楽メンバーを通じ村おこしの企画として伝えられ、奈良県今井町のJR桜井線の土手の羊による除草作業となった。この事例はTV番組でも取り上げられ、話題となり相当の反響があった。

4.今後の課題等

・羊を利用した除草は近年、全国各地で注目されている。里楽ではこれを単に除草作業とはせず、希望があれば都市部の草地にも羊を連れて出かけ、草を食べる羊との触れ合いを通して、人と農業・家畜との係りや自然環境の大切さを学ぶプログラムとして実施していく。

・耕作放棄地に落ちる茶の実は、今まで無用とされていた物だが、これを拾い集め茶実油に搾ることで、荒廃した茶園に今までには無かった価値を生み出す。

この茶実油を安定的に効率良く製造する方法、また有効な利用法(食用・石鹼・化粧品、等)を模索すること。

山添村の耕作放棄地の資源を活かした村づくり

里 楽
さとらく

中森 晃一

山添村ってどんな村



耕作放棄地が増える理由

- 農業者の高齢化…65歳以上が約70%
- 後継者の不足…職業として農業はリスクが多く、収入も不安定、安定した雇用を求めて都市部で就業
- 零細な畠では、大型農業機械の導入ができないため、効率が悪く、産地間の価格競争に勝てない



耕作放棄地が増えると、どうなるのか

- 奥山と里山が耕作放棄地でつながり、野生の動物が人家の近くまで降りてくるようになった
- イノシシ・シカ・サル・アライグマなど、野生の動物が農作物を食い荒らし相当の被害が出ている
- 防ぐには田畠を囲うしか手立てがなく、費用も手間もかかり高齢者にはむずかしい、被害が広がり、またまた放棄地が増える
- 里山が各地で耕作放棄地に飲み込まれて行く現状、このままでは農を中心とした農山村の生活が成り立たなくなるのでは、という危機



里楽の活動方針と目的

- * 山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。
- * 荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用法を作り出すこと。
- * 農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め里楽会員とする。
- * 耕作放棄地再生の過程やその結果を会員が共に体験し、それから生まれる農産品やサービスを共有する。

荒れた茶園の伐採

2010年1月より活動開始

まずは、もう10年以上も放置され
ジャングルのようになった茶園の伐採から。

笹竹が畑に根を伸ばし、難しい作業を予想したが、専業農家所有の重機によって思った以上にはかどった。

畑の入り口には看板も設置した



大量の茶の木

茶畑再生の過程で、伐採した大量の茶の木が出ました。

これをただ焼却するのも、もったいない
この茶の木を何か加工できないか?
ということで…茶の木で炭をやくことに。

全国でも例を見ない、茶の木が材料の
木炭「茶香留」(チャコール)の誕生

炭は英語でCharcoal:チャコールです



炭やき体験、楽しいぞ

炭をやく(炭を作る作業)は楽しいことです。
ここを誰でもが炭やきの体験ができる場所
にしよう！

ドラム缶で三連炭窯「天地人」を作りました。
この窯で炭やきの三つの過程が1日で体
験できます。

- 材料の茶の木を窯に詰めて密封
- 焚口から火入れ、煙の様子を見ながら火止め(約6時間)、焚口を塞ぐ
- 窯が冷えてから、出来上がった炭を取り出す

お昼はもちろん、バーベキューその燃料は
茶香留、お土産も茶香留です。



春の山菜狩り&BBQ I

里楽で一番人気のあるイベントはやはり「春の山菜狩り」です。

家族連れの参加が多く、春の里山を存分に楽しんでいます。

山菜狩りは山添村の観光ボランティアのガイドさんに案内していただき、山菜の名前、見分け方などの学習もします。



春の山菜狩り&BBQ II

午前中採った山菜は、その日のお昼の食材に、

わらび・こごみ・たらの芽・つくし・よもぎ、など等…天ぷらなどにします。

自分たちで摘んだばかりの山菜をいただく…これはうまい！

楽しく、おいしいものを食べながら、里山のこと自然のこと知つてもらえたたらと思っています。

レンガで作ったストーブも活躍、これは今はやりの「ロケットストーブ」の原理を応用して作りました。



再生した里楽畑

荒れた茶園を伐採し、再生した畑には、サツマイモを植えました。

里楽メンバーそれぞれ仕事があり手間の掛からないものというのでサツマイモにしました
しかし…



畑の雑草対策

さつま芋、ジャガイモ、枝豆、玉葱、自然薯、果樹、いろんな作物を植えましたが、収穫はわずか。

畑の管理作業が出来ないので特に草刈りが大変

このままでは、また元の耕作放棄地に戻ってしまうのでは…

そこで、名案が！

山添村の観光施設に「めえめえ牧場」というひつじの公園があります。

こちらから、ひつじを借り受けて草刈りを助けてもらおうと考えました。



ひつじの草刈り隊

ひつじを利用した草刈りは予想以上に広がりをみせました。

次の年には山添村の休耕田の除草をし、雑草をほぼ食べ尽くしました。

田畠にエサになる草があり、柵と簡単な小屋、水飲み場があればひつじは生きて行けます。

耕作放棄地が広がる条件として草刈りが出来ないことがあります、ひつじの放牧でこれを防止出来たらと思っています。

また、里楽メンバーの紹介により、奈良県今井町にあるJR線の除草作業をめえめえ牧場のひつじが手伝いました。

これはTV番組で取り上げられ相当の反響がありました。



お茶の実の利用

10月～11月、茶の花が一斉に咲きます。

特に耕作放棄地の茶にはたくさんの花が付きます。この時期、里楽の茶畠は茶の花の甘い香りで一杯です。

ちゃんと管理され刈り揃えられた茶園より、荒れた茶園に花が多い、自然なんですね。



その花の咲くころ、昨年の花が大きな実を付けています。その実が弾け中の種が地面に無数に落ちます。

今まで無用の物とされていた、この大量の茶の実を資源として活用できないか？



茶の実の油を搾る

茶はつばき科の樹木です。椿の実からは椿油を搾ります、茶の実も同じではないか…

調べると、ありました茶実油、食用・肌用と椿油と同等かそれ以上の有効成分を含んでいるそうです。

しかも、耕作放棄地のお茶はもう何年も無農薬で育っています。

里楽みんなで茶の実を拾いました。穀剥き、乾燥、選別と全部手作業、大変でしたが、何とか5kgの乾燥した茶の実を集めました。

搾油をお願いし、約500mlのきれいな茶色の茶実油「茶香油」が搾れました



里楽、今後の課題Ⅰ

羊を利用した除草は近年、全国各地で注目されています。

里楽ではこれを単に除草作業とはせず、希望があれば都市部の草地にも羊を連れて行きます。

草を食べる羊と地域の住人との触れ合いを通して、人と農業・家畜との関わりや自然環境の大切さを学ぶプログラムとして実施していく予定です。



里楽、今後の課題Ⅱ

耕作放棄地に落ちる茶の実は、今まで無用とされていた物だが、これを拾い集め茶実油に搾ることで、荒廃した茶園に今までには無かった価値を生み出す。
この茶実油を安定的に効率良く製造する方法、そして有効な利用法(食用・石鹼・化粧品、等)を模索すること。



チャロマキャンドル



里楽鍋完成

里楽のイベントにはバーベキューが付き物です。

それを担当してくれるのが中間さんです、
私たちは敬意を込めて「中間シェフ」と呼んでいます、無類のお料理好きです。

野外でありますながらBBQだけではなく、いろいろな料理を披露してくれます。

中間シェフ自慢の「里楽鍋」が出来ました。鍋つゆに茶の実の油を使います。

春の里楽山菜狩りで初お目見え！

4月19日(土)里楽：春の山菜狩りBBQ

参加者募集中！

詳しくはWebで

里楽で検索

検索

